

鹿屋市の未来を創造する人間性豊かな人材育成のための「親と子の20分間読書」運動
～ 学校図書館を中核に据えた学校経営 ～

令和2年11月11日(水)

鹿屋市立東原小学校長 兼 学校図書館長 福井 久善

はじめに

「文字・活字文化振興法」制定の旗振り役 肥田美代子さんのことばから
「言葉が持つ力」について ⇒ 私の学校経営の基盤

1 「親と子の20分間読書」運動への思い

日々の生活に潤いと夢を与えてくれるもの ⇒ 別紙『あおぞら』

2 本校の取組 ～「かたち」となるまで～

(1) 赴任後まもなく、市教委で楽しく語らせていただく中で、教育長の熱い思いを伺う。

⇒ ◎ 椋 鳩十先生の「母と子の20分間読書」がモデル ◎ 市・市教育委員会が一体となって推進
◎ 市民総ぐるみの運動として展開

(2) 具現化に向け、広い校長室でじっくり思案する中で、私なりの意義付けを

⇒ ◎ 親と子の20分間読書＝東原ひいては鹿屋市の未来を創造する人間性豊かな人材育成

◎ 全てを学校図書館から発信 ※ 先ずは、職員が読書のもつ意義を理解することから

↓ <思い描いた青写真> ↓

ア 市の「寺子屋事業」と連動させる。⇒ 寺子屋を学校図書館で実施し、活動内容に読書を入れる。

イ 校務分掌組織を見直す。⇒ 学校図書館(館長以下10人)及び「学校図書館運営委員会」を位置付ける。

ウ 乳幼児期からの取組を推進する。⇒ 外国語教育推進のため研究提携している「東原保育園」と活動提携する。

エ PTA組織の見直しを図る。⇒ 「親と子の20分間読書推進部」を設置し、各専門部努力目標にも内容を挿入する。 ※ PTA役員の願い⇒親と子の20分間読書推進モデルPTAとして、看板を設置したい。

オ 副館長(教諭)が立ち上げた親子読書グループ「どんぐりころころ」の協力を得る。

⇒ PTA組織の中核を担う。

カ 「多面的機能支払交付金事業協力者会」への出席依頼を受けた。

⇒ 地域活性化に向け、学校図書館を中核とする「読書のまち東原(ひがっばい)」づくりの構想を発表した。

※ 学校図書館を地域に開放する。

※ 農業を中心としたビジネス支援も行う。

キ 運動推進のため、コミュニティ・スクール運営協議会を活用する。

⇒ ア～カを具現化するため、委員に説明し、承認をいただいた。

ク 広報活動

(ア) NHK鹿児島テレビ 情報WAVEかごしまで特集「地域にひらけ! 学校図書館」 4/24 放送

(イ) NHK鹿児島ラジオ FMかごしまの夕べ 4/30 放送

(ウ) 全国学校図書館研究大会(香川県高松大会) 8/5~7 研究発表 及び コーディネータ ⇒ 中止

(エ) 鹿屋市青少年問題協議会 8/27 研究発表

(オ) 「寺子屋ひがっばい塾」開講式 9/18 新聞・テレビ取材

「読書のまち東原(ひがっばい)」宣言

「親と子の20分間読書」運動推進宣言

学校図書館地域開放宣言

(カ) 鹿児島県図書館大会 11/11 研究発表

(キ) 鹿屋市P連研修会 11/26 講演予定

(ク) 鹿児島県PTA研究大会委嘱公開 1/16 研究発表 ⇒ 中止 紙上発表へ

3 「親と子の20分間読書」運動への私の夢、願い

(1) 市民の日々の生活に潤いと夢を与えてくれる「親と子の20分間読書」であり、

(2) 時代を超えて、脈々と受け継がれていく「親と子の20分間読書」であってほしい。

※ 是非、義務教育を終えた方々にとっても、魅力ある取組でしっかりと根付かせて・・・

※ 市内、全ての学校図書館から ⇒ 「持続可能な花火」を打ち上げていただきたい。

おわりに

東原町内会長さんのことばから